

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選

その7

文：田崎 宗作さん

おおすぎやまむら

大杉山村慶長地震遭難者供養塔と白沼

しろぬま

慶長16年（1611）8月21日に会津地方を大地震が襲い、鶴ヶ城の石垣が崩れて天守閣が傾き、多くの神社仏閣の堂塔が倒壊・大破しました。このとき、町でも、如法寺鳥追観音堂などが倒壊しています。また、西会津町と柳津町を隔てる飯谷山が抜け落ち、その山麓にあった現在の小杉山の本村、大杉山村が埋没しました。村民百数名が埋死、逃れられた者は男女合わせてわずか5人という大災害でした。小杉山には、「大杉山村慶長地震遭難者供養塔」という石碑があり、町の指定重要文化財になっています。この塔は、地震から141年経った宝暦2年（1752）に、遭難者の供養のために小杉山村が建立したものです。現在は破損が進み、この石碑の全文の判読は困難ですが、宝暦2年に小杉山村民が205日間にわたって遭難者を掘り起し、合葬供養をしたといわれ、歴史的にも民俗的にも価値の高い供養塔です。（参考文献：「西会津町の指定文化財」）

私は昔、祖父からこんな伝説を聞きました。『地震の後、埋没した集落の上に沼ができた。この沼は白く濁り、山の動きが収まっても澄んで底が見えることはなく、いつのころからか村人たちは「白沼」と呼ぶようになった。しばらくして小杉山の村人が山仕事などで白沼の畔を通ると、そこで大きな白い蛇が泳ぐ姿を見かけた。土砂と沼の底でいつまでも成仏できない大杉山の村人の魂が、大蛇に姿を変えて現れたに違いないと信じた村人たちは、1年をかけて掘り起し、供養したという。その後、白い大蛇を見ることはなくなったが、沼はいつまでも青白く濁り、底が見えることはなかったという』



▲現在の「白沼」と飯谷山



大杉山村慶長地震遭難者供養塔▲

今月の表紙

今月の表紙は、9月28日の「子育て広場おいでおいで」に遊びに来ていた松尾圭祐くん。吸い込まれてしまいそうなくらいに澄んだ瞳で見つめられ、思わずシャッターを切りました。か、かわいいー！

編集後記

「カメムシが少ないから今年あまり雪が降らないかもね」と取材でお邪魔したとあるお宅で話題になりました。昔は「カマキリが卵を産み付ける場所の高さで雪の量が分かる」という話があったような気がします。最近はおっぱらカメムシが主役です。

「そうですね。今年はあまり見かけませんね」と相槌を打つ先輩を横目に、私は、ついこないだ自宅の網戸に5匹ものカメムシが引っ付いていたことを思い出していました。果たして今年は雪が多いのか少ないのか…。

まさかわが家だけ 長谷川祐一